

カワヨシノボリ嶺南地方産

Rhinogobius flumineus (Mizuno)
スズキ目・ハゼ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では佐分利川水系及び南川水系にのみ生息し、分布域は極めて限定されている。

種の特徴

全長 6 cm。川の上流域～中流域にかけて生息する。ふ化した仔魚は海へは下らず川の中だけで一生を送る。一般的にヨシノボリ類の胸びれ条数は 19～22 であるのに対して、本種は 15～17 と少ない。また、ヨシノボリ類の中では卵径が最も大きい。

分 布

日本固有種で、本州及び九州に分布。本県では佐分利川水系及び南川水系にのみ生息する。近年九頭竜川上流域でも確認されたが、これは明らかに移入によるものである。

生息を脅かす要因

堰堤、護岸工事、用排水路工事、水質汚濁等で本種の生息環境が悪化し、生息数が減少したものと思われる。両側回遊型のヨシノボリ類と違い、ほかの河川へ移動できない本種にとっては、現在生息している河川の環境維持が重要である。

参考文献 加藤・松田 (1994)、松宮ら (2001)、松田・加藤 (1995)、水野 (2001)、福井県編 (2002)、瀬能監修 (2004)、中坊編 (2013)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○															

ムギツク

Pungtungia herzi Herzenstein
コイ目・コイ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では嶺南地方のみ生息が確認され、本種の全国分布域の東限にあたる。今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長 10cm 程度。澄んだ川の中流域の流れの緩やかな淵やよどみに多く生息する。頭頂部は縦偏し、口は吻端にあってとがっているところはモツゴにやや似る。1 対の口ひげがあり、吻端から尾鰭基底までの体側に 1 本の顕著な黒い縦帯を持つ。

分 布

福井県・滋賀県・三重県以西の本州、四国北東部、九州北部に分布する。本県では北川・南川水系で確認され、これらの水系が日本における分布域の東限であると考えられる。

生息を脅かす要因

分布が嶺南の一部に限られているために、堰堤、護岸工事による生息場所の減少、水質汚濁等、今後の開発いかんによって、現在の豊かな中流域の環境が損なわれれば、生息数が激減する恐れがある。

参考文献 福井県編 (2002)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○			○												

イトモロコ

Squalidus gracilis gracilis (Temminck & Schlegel)
コイ目・コイ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では嶺南地方の北川・南川にのみ生息が確認されている。今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長 8cm。川の中下流域や灌漑用水路の流れの緩やかな砂底・砂れき底に多く、砂底を群泳する。雑食性で水生昆虫、プランクトン動物、付着藻類を食べる。口ひげが長く、体が寸詰まりであること、側線上の鱗が上下に長いことが特徴である。

分 布

静岡県西部以西に広く分布する。本県では北川・南川水系でのみ確認されている。

生息を脅かす要因

分布が嶺南の一部に限られているために、堰堤、護岸工事による生息場所の減少、水質汚濁等、今後の開発いかんによって、現在の豊かな中流域の環境が損なわれれば、生息数が激減する恐れがある。

参考文献 福井県編 (2002)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○			○												